

いわざ民報
社報民い
(第一八三三番) 九一四四番
己克輝千 人月百第
已除を日曜月但刊日
第十二部一 日五 月夕一 日星

電話復活
二五五番
加藤武久

十日頃から
業務開始
交通公社出張所

川畑廣徳と急追
湯本町の獵奇殺人解決迫る

以上需用の電力制限御知らせ
五〇キロワット

電力制限実施方法
福島支那平地区
東北配電

明年度の町村反別決定とる
補助金も大幅に引上げらる

明年度の町村反別決定とる
補助金も大幅に引上げらる

非住家の活用へ
住宅難緩和にこの一手

卓球選手権大会
報奨物資

中西伊之助氏來平
性内科

矢吹醫院
平稅務署の
濁酒密造狩

錦町の町會
電話新設

炭礦加配米配給要領
配給量は六日決定とる

炭礦加配米配給要領
配給量は六日決定とる

富山新驛長着任
將棋と圍碁會

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

非住家の活用へ
住宅難緩和にこの一手

卓球選手権大会
報奨物資

中西伊之助氏來平
性内科

矢吹醫院
平稅務署の
濁酒密造狩

錦町の町會
電話新設

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

炭礦加配米配給要領
配給量は六日決定とる

富山新驛長着任
將棋と圍碁會

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

炭礦加配米配給要領
配給量は六日決定とる

富山新驛長着任
將棋と圍碁會

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

炭礦加配米配給要領
配給量は六日決定とる

富山新驛長着任
將棋と圍碁會

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

炭礦加配米配給要領
配給量は六日決定とる

富山新驛長着任
將棋と圍碁會

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

炭礦加配米配給要領
配給量は六日決定とる

富山新驛長着任
將棋と圍碁會

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

平戰災復興
事務所移轉

意外な農家の財政裏面

證紙貼付の舊圓引換に覗く

新圓のインフレと共に金の落ち先は農家と農家と限定されたが十月米の舊紙幣の交換は銀行直接の交換が多くて郡農業者への交換は僅か三十萬圓に過ぎなかつた、落ちてゐると云ふ金の行方を農業者支部に見ると三月からの各農家への抽出は平均一千萬圓を郡内農家人口に割當すると一戸平均六百八十四圓九十三錢、一人當り六百圓六十一錢とあり、五百圓の枠内で計算すると余り良い率ではない、農機具必需物資を買ふとなると途端に赤字財政になる、米の横流しも云ふ面から見るに無理もないと云へる、但しなれないとは云ふものの食糧の安全だけが一番の強みである、意外な農家の財政の裏面である。

素晴らしい米の供出

甘藷も劣らぬ成績振り

郡下の早場供米戦は既報の如く八百二十俵に對して五万五千五百一十一俵の供出期限をめぐつて熾烈百七十一俵に過ぎない、關ふ農化五日地方事務所には報民の意氣を遺憾なく發揮して告げよると割當千六百俵に對し米どころ「石城」に凱歌を擧げて四百二十九俵を凌駕しての二俵千二十九俵に達した、一方甘藷の供出も好成绩を収め割當四萬

新憲法の話

門傳正

五、天皇の神性格の拂拭
の。新憲法ではさう言つた神様や佛様を拜むこと、政憲の文句は全然無くなつて治をすること、戦争をすること。金藤國務大臣は天皇は「國を治すること」等を一緒にして民のあこがれの象徴であつて、學問をすること等を一緒にして民のあこがれの象徴であつて、は不可ない。之をやつたら日之が國體をなし、之は古來些か本は戦争に負けた。戦争は神風も變らない。だから主権が國民が吹いて勝つ、政治は八紘一宇にあることになつてもそれは政で世界統一する、學問の最後の體の變化で日本の國體には變り小六つかしい所は信仰であるといふと説明した。之に對していふのだから先づ勝つことはな或學者は學的でない批評してゐる。舊憲法にもさう言つた所がゐる人もある。

濱風會主催

拳闘大會

十日小名濱町 第一國民校で 小名濱濱風會主催で東京及東北の拳闘選手三十余名を招き來る十日午後五時から第一國民學校講堂に於て華々しく拳闘大會を開催する、小名濱建設同業會、福島縣拳闘協會、福島民友、本

投資を歓迎す 要望批判結構 紙上可匿名 魚の配給

魚の配給問題について従来見解の非難があつた、曰く量不足、曰く配給所員の専横、曰く横流し等々、本欄でも屢々見受けられた、然し自分は尙く社小名濱支局が後援となつて居り肉彈相搏つる猛闘が展開されるので非常な前人氣を呼んでゐる

お楽しみを!! キングレコード 家庭染料 みゆき染 有名化粧品、固型洗滌染料、玩具、文房具、レコード針、甘味料 山吉商店 平市四丁目 電二六八番

雄々しい開拓團員

田人村へ十九世帯歸農

開拓者延吉縣亮兵衛から引揚げ九世帯八十一名でいま民主日本を開拓團員百二十余名のうち郡再建の決意も新たに土に挑み下へ歸農した團員は田人村小野である 吉次さん(五四)一家をはじめ十



磐城寸併壇

栗石太郎

内藤露沾 (2) 元祿八年岩城に下つた露沾は三年八月十五日六十四才の時仙保十八年に歿するまで三十九年露沾八幡宮に併歌仙一巻の間在城し、その間家臣の併歌を額を奉納した事により祭事の指樂したのみならず他國のものにまでその影響をあたへた。これにまでその影響をあたへた。この時代の東郷併壇の大勢を展望すれば中通りでは須賀川の等号を筆頭とし白川、石川、川邊、澤川、長沼、郡山、桑折、藤田等に相當の併人が居り、須賀川併壇が江戸と交渉あつたに比し、家臣としては池田四郎郎祐、桑折藤田の併壇は仙臺と交渉が荷、松田半人芳津、三浦左助右衛門、會津には眞享三年大荒、中島定八、水間伊六、三浦風が足を入れたことが日本、保生左太夫立、由之、大行脚文集にのつてゐるが、こ版では昨、江戸宗匠として情の併人は他國のものとは余り交、仲洲、湖十、青嶽、國女、涉がなかつたやうである。双葉部湖十花千、仙臺では内海相馬にも四人の併人の名が日本秀巴露光、秀巴の子花川、治昌行脚文集にのつてゐるが他の捨意、未風、辰、勇徳、龍實、交渉はない、岩城には風虎、露寺梅園、江戸宗匠海菜等である。活を始めとして多數の併士を出藤田の併人多嶺松雨は露沾と所知られてゐないのが残念で黒大権現に奉納した。之は享保廿五日、八十二才)は次の句

松風の琴を離れて身にぞ入る (露沾御中陰) 併友として次の十一人を数へる 百菊翁立圃、和雜架琴風法師、白雲亭無蚊、水戸山野遊主水、正、百華亭露堂、小銀治市兵衛、露寺梅園、興樂閣本伯元、西宮湖十、江戸深川號露入道、露肝、露通、齊部氏、荷葉、岩城岡小名安立寺、著聲、津田座頭小夜、芳津、松田半人、鶴里、岡田又右衛門、月空露露川、尾張の人 門人には 水間清徳を第一とし、露薄、露傘、清荷、活巴、露松、任梅、活渡、清岡、萬珠、素堂、文水、木田見樹院、松山、守秋、相良太守、洲上杉駿河守、冠山、横田備中守雪井等の諸侯連中露沾の句は次の通りである。

初露をがむ目あてやしのぶや 岩城大守 露沾 桑折の併人佐藤馬耳は露沾と交遊があつた。かつて飯野哲二氏(宮城女子専門學校教授、奥の神道の基礎研究の著あり)が馬耳の後裔の家で発見された「御追福併集」をみると江戸の門人、仙臺、山形、桑折、須賀川、笠間、水戸、鹿沼、本宮、窪田等の門人が七回忌にもした追悼句集である。之に由つて如何に他國まで影響をあたへたかが推察出来る。 須賀川の露長相樂等別は露沾の寵を得て時折平に参向しその指導を受けた。須賀川に露沾の名に由ること其大である。元祿二年露沾が例の奥の細道の途すがら等別を訪ねたのも露沾の紹介に由つたのであらうと云はれる。 露沾は露沾に聘せられて平城で客死し、遺體は送られて須賀川長松院に葬られた。時に寶永二年十二月四日である。 其角の高弟、寶曆十一年十一月廿五日、八十二才)は次の句

保健告知板(阿康) 冬期の疾病預防(感冒、肺炎、シモヤケ、ヒビ、神経痛)には ビタミンA B 2 内服薬、カルシウム剤、皮膚預防薬、コールド温泉薬(いそだま) 殊に夏期ヒゼン、カイゼン傳染病に感染せられた方は體質向上に御留意下さい 右家庭衛生資料の御用命は 日本健民厚生協會指定 あーる薬局 平市山町銀座街 電話四十四番 視力試験設備が有ります 鏡眼 門專 屋玉 日丁二市平